

# 建築と積算

The Building Estimation

No.494

春

2019

コストがわかれば 建築が見える！

**BSI** 公益社団法人日本建築積算協会  
The Building Surveyor's Institute of Japan (BSIJ)

ターニングポイント 2020

特集

“建築コスト管理士”のすすめ

新連載 生活と仕事に役立つ民法改正





## 建築積算から学んだもの

崇城大学 工学部 建築学科  
森山 愛海

この度は、建築積算士補の資格を取得することができ、加えて建築積算士補試験優秀賞をいただきまして大変光栄に思っております。さらに今回、会誌『建築と積算』において執筆の機会をいただきましたので、自己紹介、受験の動機、建築積算を学んで思ったこと、将来計画について書かせていただきます。

私は現在、崇城大学工学部建築学科の3年生です。今年の3月から就職活動の本番を迎えるため、履歴書を書いたり、面接の練習等の準備をしています。今回取得した建築積算士補は、3年生の前期の講義の中で受験をしました。3年生への進級時に私は、JABEE認定を受けている計画コースに進みました。もう一つ、構造コースという構造を専門に勉強するコースもありましたが、私は設計に興味があったため、計画コースに進みました。建築積算という講義は必ずしも取らなければならない授業ではないのですが、崇城大学が「建築積算士補」資格の認定校で、講義内で資格の受験ができるということもあり、勉強してみようと思いました。講義を受ける前までは、ただ部材の数と値段を掛け合わせていく計算中心の講義だと思っていました。しかし、実際に受けてみると単にコストの算出といっても、その過程には発注方式や契約方式などいろいろな方式や、建築設計図書や仕様書などがあり、すぐに算出できるものではないことを知りました。また、建築積算における用語も多く、数量に関しても、計画数量、設計数量、所要数量と分かれており、理解するのが難しかったです。しかし、テキストや毎週出される課題をこなすことで徐々に理解できるようになりました。1、2年生で習った構造の講義の内容と関連しているものも多くあり、建築積算を学ぶことでより具体的になり、身についたものもたくさんあります。

私が、建築積算を学んだ中で一番印象に残っ

たものは、LCC(ライフサイクルコスト)です。建築物の生涯のコストをみると建設コストはほんのわずかで運用コストや修繕コスト、一般管理費、保全コストが大半を占めていました。このように、私は、建物が完成するまでのコストだけではなく、完成後の運用や保全コストまで、建築物の全生涯を管理する建築積算という仕事に魅力を感じました。また同時に、建築業界で働くには建築積算を理解することが大切だと今回の講義を通して感じることができました。

次に、私の将来計画について書かせていただきます。将来は、住宅の設計がしたいと考えています。お客様に住宅を売るということは、一生で一番大きな買い物であることから、「夢」を売るということだと考えています。自分の設計した住宅が、お客様の帰る場所になり、安らぐ場所になり、成長していく場所になる。そういうところに私は魅力を感じています。住宅の設計がしたいと思ったきっかけは、3年前に起きた熊本地震で被災したことでした。私はあの時、初めて家に帰るのが「怖い」と感じました。マンションに住んでいるのもすごい揺れを感じたこともあり、また、余震も多かったので怖くて家に戻れず車中泊していました。私は、家は人間の衣食住の1つであるように安らぐ場所であり、決して「怖い」という感情を抱いてはいけない場所だと考えています。この経験から私は、設計者自らがお客様とコミュニケーションをとりながら設計し、販売後まで管理することで少しでも安心して暮らしていただけるような仕事がしたいと思うようになりました。

最後になりましたが、今回はこのような機会を与えてくださりありがとうございました。今回の受賞を糧に今後も一級建築士等様々な資格取得に向けて頑張っていきたいと思っております。私に、このような機会を与えてくださった方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。